

子どもたちの未来のために
何ができるか考えよう！
～親の気づきが子どもを変える～

評議員会報告／会長あいさつ	1 P
【特集】コロナで変わった私の暮らし	2 ～ 3 P
市P連活動報告	4 P
PTA活動報告	5 P
【特集】ICT教育って何？	6 ～ 8 P
編集者名簿／編集後記	8 P



れん

富山市 PTA 連絡協議会広報紙 第 104 号

コロナで始まり、コロナで終わった一年。それでも一歩前へ。富山市 PTA 連絡協議会は子どもたちのために歩み続けます。

コロナで変わった私の暮らし 2大特集！ ICT 教育って何？



新しい集会の形を模索しながら、
第二回評議員会が開催されました！

11月17日(火)市内の各小中学校のPTA会長を招集し、水橋ふるさと会館相山ホールにて第二回評議員会を開催いたしました。今年度の市P連の会合では、体温測定・除菌・ソーシャルディスタンスなど十分なコロナ対策をした会場への出席か、またはオンライン参加のいずれかを選べるハイブリッド方式を採用しています。



会長あいさつ

富山市 PTA 連絡協議会
会長 古川 尊久

この令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に振り回された年になりました。本来なら、夏にはここ富山でPTAの全国大会が行われ、多くの人が集い、楽しく学ぶ機会を得ていたのだと思うと残念でなりません。これまでに力を貸していただいた皆様には心より感謝申し上げます。

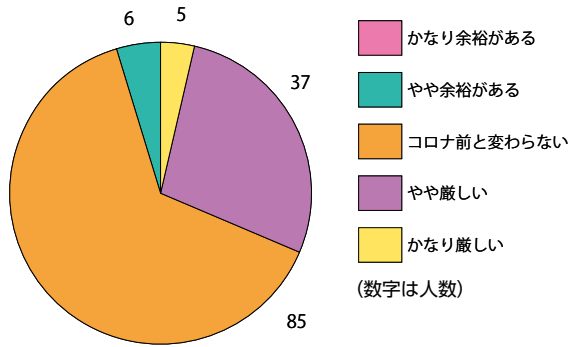
私たち親世代が子どもたちの未来を考えて行動を起こすことが大切だと思っています。そのためには、現状を知り、何が必要となるかを学ばなければなりません。その意味で、「情報共有と学びの場の提供」を重点実施項目の一番目に掲げ、その一つの形として全国大会の開催に意義を見出し、力を入れて参りました。

コロナ禍と呼ばれる状況の下、人が集まって行うPTA活動は縮小せざるを得なくなりました。そこで、それぞれの小中学校のPTA活動をどう支えられるかという観点から、市P連として何が出来るかを考え、本年度の事業を進めて参りました。ホームページ更新による情報の発信や、会長情報交換会・小中学校長会との懇談会・市教委との懇談会・親まなびサロンなどの事業を通じて、これまでの例年実施してきた市P連の事業を改めて見つめ直すことが出来たような気がします。

私たち一人ひとりが出ることはわずかですが、わずかな行動がたくさん集まって大きな力になると信じています。そして、次の世代に繋いでいくこと―親世代の私たちが学び、考え、伝えていくこと―これを少しずつでも推し進めていきたいと思えます。これから富山市PTA連絡協議会をよろしくお願ひ申し上げます。

コロナで変わった私の暮らし

●コロナ禍で家計に変化はありますか？

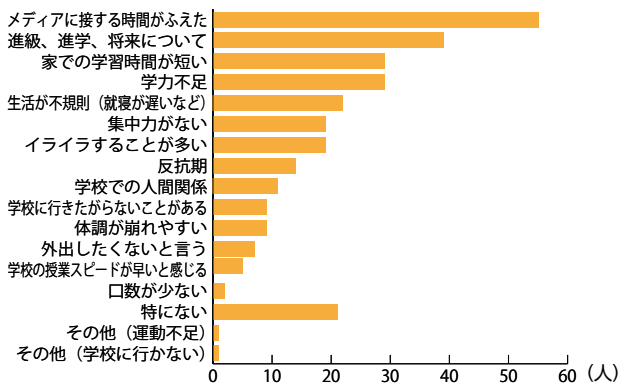


➔ 32%の方がかなり厳しい、やや厳しいと回答しており、コロナ禍で残業減、ボーナス減、パート収入減が影響しているものと思われます。

新型コロナウイルスがPTA会員・児童生徒の生活様式にどのような影響を与え、各家庭でどのような工夫や取り組みをしていたのかを堀川中学校と大久保小学校の保護者にご協力いただき、令和2年12月18日(金)~12月28日(月)にかけて調査しました。
(回答者数：172名)

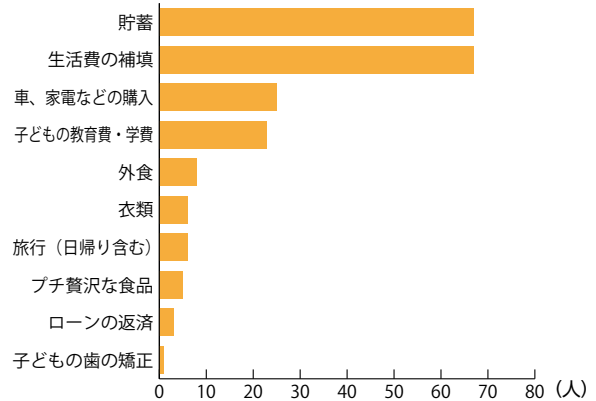


●最近のお子さんの様子で心配な事がありますか？ (複数回答可)



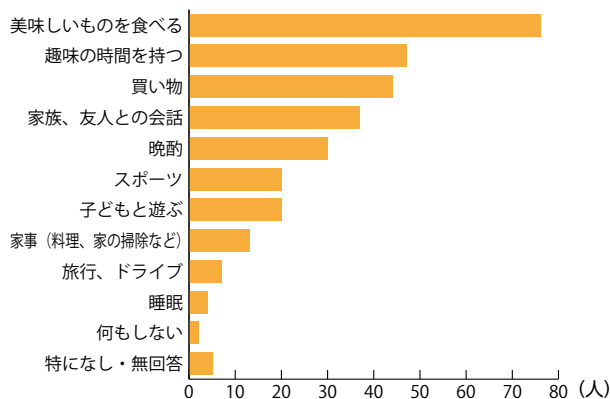
➔メディア(テレビ、ゲーム、SNS)に接する時間が増えたことで生活が不規則になり、睡眠不足、集中力の低下、学力不足、精神が不安定になる傾向が見られました。

●特別定額給付金 10万円の使い道は？ (複数回答可)



➔10万円の給付金を貯蓄に回す人、生活費の補填に回す人の回答が同数でした。家族の日帰り旅行、プチ贅沢の回答があり、遠出せずに家の中で楽しむ事に使用されたことがわかりました。

●ご自身(親)のストレス解消法は？ (複数回答可)



➔複数回答可の質問の中で、一番回答数が多く、親自身もストレスが溜まっている状況が認められました。美味しいものを食べる、趣味の時間を持つ、買い物、晩酌などソーシャルディスタンスを保ち、一人または少数で楽しむ傾向が見られます。

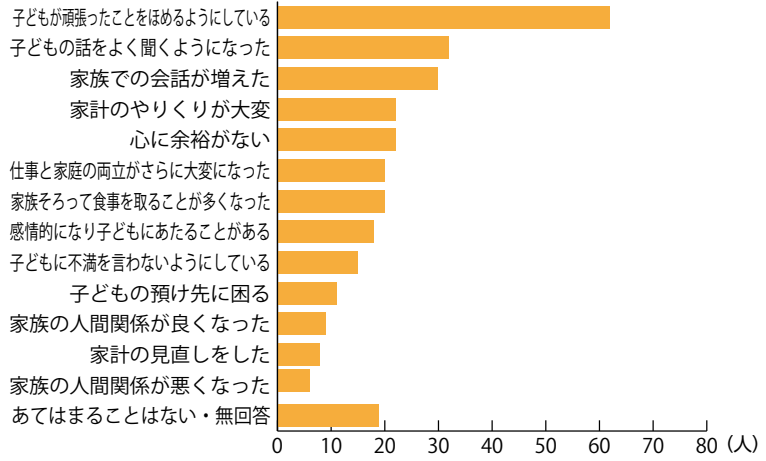
↓子どもの話を聞いてあげる、子どもと会話するという内容の回答件数が最も多く、次いで子どもの自由に好きなようにさせてあげている、一緒に遊ぶなどして家族の時間を過ごす、怒らないようにしていると続きました。コロナ禍でストレスを抱えながら登校し、学校での活動も制約を受けている子どももストレスを感じ取っているため、家では子どもができるだけリラックスできるようにしている傾向が見られます。

多かった回答

- ・話を聞く／会話する
- ・好きなことをさせる
- ・怒らない
- ・一緒に何かをする
- ・特になし

●お子さんにストレスをためないために心がけていることはありますか？(記述式)

●現在の家庭生活であてはまることはありますか？（複数回答可）



↓子どもをほめたり、会話するように心がけている様子が認められます。

一方で、親自身の心の余裕がなくなり感情的に子どもに当たってしまった、家計が大変、子どもの預け先に困るといった切実な悩みも多くあることがわかります。



●休校期間中、家での過ごし方で工夫したことを一つ教えてください。（記述式）

多かった回答

- ・生活リズムについて
- ・一緒に何かをする
- ・運動する

↓一緒に勉強、一緒に料理、お菓子作り、一緒に運動する、庭でバーベキューをするなど、一緒に何かをする家族がたくさんありました。生活のリズムを崩さないように早寝早起きを心がけ、メディアコントロールをして、学校へ行っている時と同じように時間を決めている家庭が多く見られます。

また学習の遅れを無くすために独自で教材を準備する家庭もありました。そのほか、コロナ禍で一気に広まったオンラインのzoomを活用して、会えない習い事の仲間同士でコミュニケーションを取った、ブームの鬼滅の刃の遊び道具を廃材を活用して作った、という家庭もありました。

●学習面について家で工夫していることとありますか？（記述式）

多かった回答

- ・計画的
- ・リビング学習

↓「特になし」という回答が68件と最も多くありました。帰ったらすぐに宿題や学習をする、時間を決めてやる、リビング学習をする、テレビやyoutubeの時間を決めるという意見が多く、中には、宿題ややるべきことのチェックリストを作る、やるべき事を紙に書いて貼り、朝、今日は何をするか確認するといった意見もありました。



●学校で頑張っておられる先生方へ一言お願いします！（記述式）

多数回答をいただいた中から、いくつかを選んでみました。

- ・「100の説教より1の笑顔で子どもは悟ります」
- ・「先生方も自分自身を褒めて笑顔を増やしてくださいー」
- ・「子どもたちの事を第一に考えてお仕事をされている姿に感謝しかありません」

↓「コロナ禍で長い休校があり、感染対策をしながら先生方の様々な工夫や努力で授業を行ったり、行事を行ったりすることに対しての感謝の言葉がたくさんありました。また先生への「自分の時間を大切にしてください」「健康に気を付けてください」という

ねぎらいの言葉や健康を気遣う声もたくさん見られました。

一方で、「先生だけが大変とは思わない。それぞれの仕事で大変なことがある」「行事を減らさないで欲しい」「勉強の遅れが心配なのでしっかりと見てほしい」という意見や要望もありました。



まとめ

今回の調査結果では、コロナ禍における各家庭での様々な工夫が認められました。特に、テレビやSNSの時間が多くなるため、生活が不規則になり学力低下、健康面、精神面を心配する意見が多く見られました。その対策として、家族と一緒に楽しむ、子どもの話を聞くようにしている、好きなようにさせているという回答が多くありました。

コロナの影響で、たくさんのお会や行事が中止になったり、時短になったり、子どもたちにとっても経験することのない試練が課されています。その中でも、子どもたちは自分で考え、自分で行動して少しずつ成長している様子が認められました。コロナ禍で失うもの、できなくなったこともあった一方で、手洗いや運動する習慣が身に付いたり、一緒に会話したり食事や運動する時間を与えてくれたりしたことで、家族の大切さ、当たり前の大切さを学んでいるようです。

今回のアンケート結果を皆さんの家庭生活や子どもたちのために役立てていただければ幸いです。

多かった回答

- ・自主的にになった
- ・日々に感謝するようになった
- ・お手伝いが増えた
- ・衛生面に気をつけるようになった
- ・一人で留守番や行動ができるようになった

●休校〜現在でお子さんの Good News（成長した点など）を聞かせてください。（記述式）

総務企画委員会

9月17日(木)午後7時より富山市小学校長会、9月24日(木)午後7時より富山市中学校長会、11月26日(木)午後6時30分より富山市教育委員会との懇談会を開催しました。

各校長会との懇談会では休業中の子どもの様子や現在の学校の状況などについて、教育委員会との懇談会では「学力向上」「食育・健康」「教育環境」の分科会に分かれGIGAスクール構想や運動能力、教職員の働き方改革、地域コミュニティとの連携等について意見交換を行いました。

新型コロナウイルスの影響もある中の懇談会でしたが、「子どもたちの学校生活の為に何ができるのか」との思いを各校長会及び教育委員会と市P連との共通の意見として終了しました。



会長支援委員会

8月2日(日)八尾コミュニティセンターにて「会長情報交換会」を実施しました。

コロナ禍における各学校の活動状況やコロナ感染予防対策について報告し、またPTA活動のあり方について意見を出し合いました。今回新たな取り組みとして、密を避けるため、そしてより多くの意見やアイデアを出しやすいよう、模造紙に付箋紙を貼るKJ法を活用しました。また、コロナ感染予防対策として、オンラインでの参加を初めて導入し、会場とオンラインのハイブリッドで開催しました。

これからもPTA会長同士の情報交換を通じ、会長同士が繋がることで不安や悩みが軽減できる機会を提供し、人間力を高められる会であるよう努めます。



富山市PTA連絡協議会はこんな活動をしています。

ブロック長会議

9月23日(水)午後7時より、婦中ふれあい館にて第1回ブロック長会議を開催しました。

ブロック長24名中、ZoomによるWeb参加を含め20名にご出席いただきました。

はじめて就任されたブロック長の方々向けに、ブロックやブロック長の役割等の説明をさせていただきました。その後、約40分という短い時間ではありましたが、5つの地区に分かれてブロック長同士の交流を深め、情報交換を行うことができました。

これからもブロック長の皆さまとのつながりを活かし、各ブロックとの密な連絡と情報共有に努めます。



家庭教育委員会

家庭教育委員会では、婦中ふれあい館において、親学びサロンを開催しました。9月はコロナについて、10月は家庭教育について、11月はネットについてとそれぞれのテーマで話をさせていただき、参加者からは「他の学校の人と話せたのが良かった」「色々な考え方があることが分かり、ためになった」「時間が足りない、もっと話したい」などの感想が寄せられました。

こうした声を受け、皆さまの期待に応えられる親学びサロンにしていきたいと考えています。

そして今後の委員会では、親学び推進リーダーへの支援のあり方について検討していく予定です。



中央小学校：ウォークラリー

10月30日(金)にウォークラリーを開催しました。今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、例年開催しているバザー、学校に泊まるキャンプを中止しました。そこで、「何かできることはないか?」と執行部メンバーで協議し、3密にならないウォークラリーの開催を目指しました。

当日は、74チーム、227名の児童、保護者の参加があり、運営スタッフはPTA役員45名にご協力いただきました。

校区内約1時間半のコースに20問弱のクイズを出題し、8箇所に見守り隊を配置しました。友達同士、家族で和気あいあいと地元を散歩して改めて地元の良さを再発見できたイベントでした。PTAの行事が子どもたちの健全な育成に寄与できると実感でき、参加者も運営スタッフも楽しめた一日となりました。



四方小学校：ハロウィン仮装コンテスト

秋ごろに若干の新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いた中で、子どもたちに何か思い出を残すことはできないかと考え、10月31日(土)に「ハロウィンコレクション in よかた」と銘打って、仮装コンテストを開催しました。当日は感染拡大防止策として、入場時の体温・体調チェックや密にならないように学年ごとに仕切りを設けました。

子どもたちは保護者の方々と相談し、思い思いの衣装を身にまといクオリティーの高い仮装も多々見られました。校長・教頭・会長にて審査しましたが優劣つけがたく、時間がかかりすぎたのが反省点です。

「できないという前にやれる方法を編み出そう」との考えで今後の活動を進めていきたいと思っています。



PTA 活動報告：コロナにも負けずにこんな活動をしました！

光陽小学校：秋のわくわくお楽しみ会

毎年開催していたバザーは中止となりましたが、子供たちに思い出を残してあげたいという気持ちで11月1日(日)に「光陽っ子秋のわくわくお楽しみ会」を開催しました。

当日は2学年ごとの3部制にし、手指や備品等の消毒や換気等、感染対策に努めました。射的・缶積み・くじ引き・謎解きをし、友達と協力して問題を解いたり、景品を見せ合ったりして楽しそうな姿を見ることができました。また、全員で千羽鶴をつくりコロナ終息を願いました。初めて千羽鶴を見た子どもたちがたくさんいました。役員の皆さんには休憩をはさみながらの交代制にしました。長時間の作業となりましたが、子どもたちの笑顔に癒され役員もうれしい気持ちでいっぱいになりました。



堀川中学校：親から中学生へメッセージを添えて『読んでほしい本』を紹介

堀川中学校 TH 会では、コロナ禍外出自粛で子どもたちの自宅にいる時間が長くなることから、子どもたちに読書を勧める新規事業を計画しました。事業を検討するうちに、「大人になってから読んでおけば良かった」「勇気づけられた」「心に残っている」など、親から本を通じてメッセージを贈りたいといった意見が多く出ました。

早速、中学校の司書の先生方と協議し、保護者の方々に一言メッセージを添え、ホームページで応募していただきました。応募は20冊あり、図書委員の子どもたちに寄贈いたしました。図書委員会では、一言メッセージとともに、本を手作りのポップで展示し、多くの生徒に読んでもらえるよう工夫を凝らしていただきました。



この活動は来年度以降も、親・先生・生徒の連携事業として継続し取り組み予定です。



ICT教育って何？

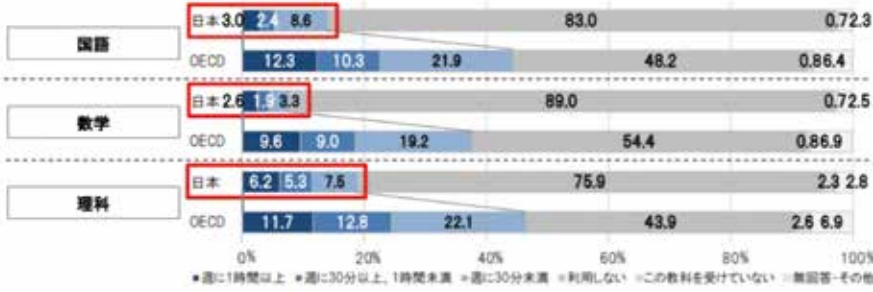
最近、新聞・テレビでよく見るようになった「ICT教育」という言葉。文部科学省が真剣に力を入れ始めたこのICT教育がこれからの教育を大きく変えるかもしれません。ICT教育とはどんなものなのか、ICT教育でどんなことができるのか、今どの程度進んでいるのか、調査しました。

飛躍的な知の発見・創造など新たな社会をけん引できる能力が求められるとしています。この根幹をなすのが、先端技術を理解し、教育データを活用できる能力であり、これを実現するために前提



出典：内閣府ホームページ (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



出典：OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」

ICT教育：ICTとは、Information and Communicaton Technologyの頭文字で、日本語では「情報通信技術」と訳します。「ICT教育」とは、パソコンやタブレット、インターネットなどの情報通信技術を活用してコミュニケーションを取っていく教育方法を指しています。

<ICT教育でできることの例>

- ・教室のプロジェクタに図表などを拡大投影する
- ・タブレットで作った発表資料を一瞬でクラス全員・端末に共有する
- ・一人一人に合わせた個別学習が“いつでも”“どこでも”できる
- ・タブレットを使って調べ物をする

既に学校現場では各教科に合ったICT教育が導入されつつあります。ICT教育を導入すると次のようなことができるようになります。

ICT教育でこんなことができる



1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークの整備

すぐに“どの教科でも”“誰でも”使えるICTを教育現場に取り込み教科の学びを深める

GIGAスクール構想とは、児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想です。新型コロナウイルス感染症拡大によって、学校が休校となり、オンライン授業が行われるなどの事態を受けて、急ピッチで進められています。

子どもたちの能力を最大限に引き出す、文部科学省による「GIGAスクール構想」始動

タブレットで作った発表資料を一瞬でクラス全員の端末に共有⇒学習・校務の効率化を実現

一人一人の反応や考えを順次に把握しながら双方向的に授業を進められる。校務の効率化が期待でき、より本質的な教育に時間を割くことが期待できる。



その場で発言しなくても、通信でみんなの意見を共有できる。

教室のプロジェクタに図表などを拡大投影よりわかりやすい授業



誰もがイメージしやすい教材の提示、動画やソフトを使ってよりわかりやすく。

Society 5.0とICT教育

政府は2019年6月、狩猟社会(Society 1.0)・以下数字のみで省略、農耕社会(2.0)・工業社会(3.0)・情報社会(4.0)に続く、新たなSociety 5.0を目指すことを閣議決定しました。Society 5.0とは、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させた人間中心の社会(Society)で、知識や情報が十分に共有されない情報社会の欠点を補い、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながることで、様々な知識や情報共有がなされ、今までにない新たな価値を生み出し、これらの課題や困難を克服するといふものです。

文部科学省によれば、Society 5.0では、高い志を持ちつつ、技術革新と価値創造の源となる

となるのが、

- ・文章の意味を理解できる読解力
- ・計算力・数学的思考の基礎的学力
- ・ICT教育

ところが、日本の学校現場におけるICT利用率はOECD加盟国で最下位。そこで、2019年12月に文部科学省は本腰を入れてGIGAスクール構想をうち立てたのです。

一人一人に合わせた個別学習が“いつでも”“どこでも”
できる ⇒ 個別に最適化された学習が可能に



理解度・レベルに合わせた
学習ができる！

デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化。
様々な特徴を持った生徒にきめ細やかな対応が可能。

グループ単位の課題解決学習も、
いつでもどこでも可能。

タブレットを使って調べ物をする
⇒ 情報活用能力の向上

たくさんの書籍や資料も検索
が簡単！

タブレットを使うことが楽しい！
ソフトを使って発表資料を作ると
わかりやすいな。



インターネットを使って一人一人が情報を検索、主体的に情報を選
択し、収集・整理ができる。情報モラルの習得。

無限に広がる ICT 教育の可能性～私の学校ではこんなことやっています

もはや待たなしたで始まった ICT 教育。ただ、教育の現場ではインフラは揃いつつあるものの、何をすべきかまだわからない状態です。そんな中、ICT 教育に関して先進的だったり、ユニークな取り組みをしている学校を取材させていただきました。

試行錯誤を楽しむプログラミング学習～鵜坂小学校

鵜坂小学校では、長年ソフトウェアを開発し、毎年世界のロボット大会に子どもたちと参加している講師の先生を招聘してプログラミング学習を開催しており、今年から全学年に実施しています。

12月下旬に開催した3年生のプログラミング学習ではロボットカーの操作を体験しました。これはパソコン上にある「真っすぐ」、「右」、「休止」等のプログラムのブロックをつなぎ合わせてロボットカーの走るルートを指示し、障害物を避けながら、決められた場所にいる患者を車に乗せ、病院に運び、スタート地点まで戻るといったミッションです。

走る距離、曲がるタイミング、止まって患者を乗せる時間、障害物をどうやって避けるかなど、様々な課題がある中、子どもたちは何度もテストコースで車を走らせては次々と課題をクリアしていきました。最後の発表の時間になると、完走したり、コースアウトしたり、ミッションの最初だけしかクリアできなかったり、結果は様々でしたが、誰もが固唾を飲んで真剣に応援し、自然と一体感が生まれました。

3年生以外でも、低学年は相撲ロボットで対戦、5年生はセンサーを活用したロボット、6年生は自分たちが考えた課題を解決するロボットのプログラミング等、各学年のレベルに合わせた授業を展開しています。今年の6年生は、これからの生活に役立つためにプログラミングをどう活用できるか考え、自動運転システムをプログラミングしたり、手を触れずに物を運ぶロボットをつくったりしました。

こうした驚くまでのレベルの高さは毎年のプログラミング学習の積み重ねの成果であり、鵜坂小学校の誇るべき伝統になっています。今後は、各学年で身に付けたい力を明確にして、系統性のある独自のプログラミング学習を進められるよう、地域人材と連携していきます。



100 本以上のオンライン授業を実施～速星中学校

題時休業中(4月～6月)のオンライン授業 103本



速星中学校では、2020年春の休業期間中にオンライン配信を積極的に行い、計103本の動画配信を行いました。

制作にあたっては、休業期間中でも生徒が不安を感じないように、一人ひとりに話しかけるようなビデオ撮影を心がけました。当初は ICT スキルの高い先生が先導的にビデオ配信を行っていましたが、まもなく初心者の先生も積極的に加わり、各教科で徐々に工夫を凝らしたビデオ配信を行うことができました。さらに、LINE グループを設けて、お互いに教えあうことでクオリティの向上を実現することができました。

また、今年はコロナ禍で PTA 総会を開催することができなかったため、オンラインでの決議を行いました。昨年の回答率が 61% に対し、今年は 75% にも上り、オンライン決議の有効性を得ることができました。

授業が始まってからもほとんどのイベントが中止や縮小になりましたが、そういった中でも定期演奏会、体育大会はホームページで配信することで、家庭の大画面テレビで家族ぐるみでイベントを楽しんだり、後日訪れた祖父母に動画を見てもらったりなど、予想外に楽しみ方が広がりました。

今後は、すべての普通教室に 65 インチ大型モニターが配備されることになっており、コロナが長引いても、入学式や卒業式等その他の行事も密を避けて、各教室で生徒たちが無理なく参加できることを楽しみにしています。

オンライン集会やってみた！～桜谷小学校



富山市立桜谷小学校では、「学校保健委員会」のオンライン集会にチャレンジしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染リスク低減のため全校児童で集まることを自粛し、集会が全く実施できなかったのですが、保健委員会の子どもたちの「学校保健委員会やりたいな～」という声が発端となり、先生方の協力のもとオンライン集会の開催が決まりました。

GIGAスクール構想により、無線LANが配備されたので、その環境を利用し、8カ所の教室にそれぞれパソコンを配置し、学校保健委員会の発表を保健室から配信することにしました。

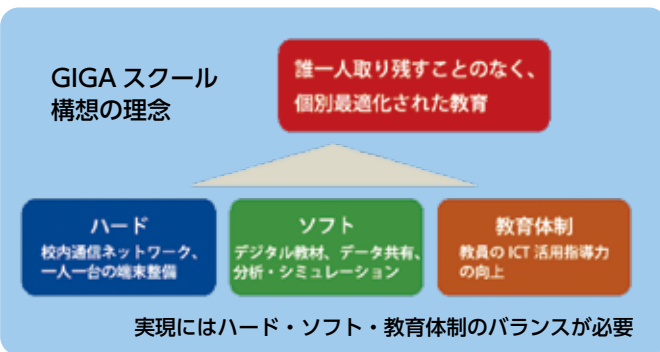
12月17日（木）、8カ所の教室に、それぞれ全校児童が集まり、オンライン集会「学校保健委員会」が開催されました。途中、映像がフリーズしたり、画面が乱れたりとしたトラブルもありましたが、無事集会を終えることができました。

集会に参加した子どもたちは、「映像がフリーズしたときは焦ったけど、とても楽しかった！」、「また、いろいろな集会をやりたい！」と笑顔を見せていました。



これからのICT教育

新型コロナウイルスが拡大して突如全国の小中学校が休校となり、オンライン教育の充実の必要性が叫ばれた中、急ピッチで進められたICT教育には大きな期待が寄せられています。



その一方で、GIGA スクール構想によって一人一台のパソコンが実現されつつある今、ハードは揃ったもののどう使ったらよいかというソフトの面ではまだ模索は始まったばかりです。ICT教育の「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育」という素晴らしい理念を実現するためにも、ハードとソフト、さらに教員のICT活動指導力のよりよいバランスが求められています。

(図は文部科学省の資料を基に作成)

この方に聞いてみました



富山市教育センター
川崎純二情報教育係長

今後のICT教育について、富山市教育センター 川崎純二情報教育係長に話をうかがいました。

一 将来に向け目指していることは？

子どもたちが一人一台端末を文房具や百科事典のように日常的に授業で活用する姿を目指しています。そして、これまで以上に、一人一人の学習状況に応じた個別学習や、子ども同士が意見を交流しながら、協力して作業するといった協働学習の時間を取り入れていきたいと考えています。また、すべての子どもたちの学びを保障したいと考えており、遠隔授業を活用した学習支援については、様々な事情により登校できない児童生徒の学習保障として、有効な方法の一つと考えます。児童生徒の実情や保護者のニーズに応じて活用を検討していきます。

一 子どもたちに得てほしいものは？

ICT教育を通して児童生徒には、一人一人の学びの可能性を無限大に広げ、生涯にわたって主体的に学び続ける力や他と協働しながら問題を解決したり、夢の実現に活かしたりする力を身につけることを望んでいます。

令和3年度定期総会 開催 新体制がスタートします！

2021年5月8日(土) 13:30～/会場：大沢野生涯学習センター 4階ホール

編集後記

「コロナだからできるだけだけ集まる回数を減らそう！」と始めた広報紙作り。本来ならば何度も集まって長時間かけて議論すべきことや作業を、たった3回の会合と、あとはアンケートやLINEなどのオンラインのやりとりだけで、なんとか発行にまでこぎつけることができました。

コロナ禍で既存のやり方が通用しない中、当たり前に見えていたことが実は無駄だったなど、色々気づかせてくれた一年でもありました。

最後に、全ての人に安全で自由な日常が一日も早く戻ってくることを心から願います。

(松本)

令和2年度広報委員会

- 委員長 松本 規人(堀川中)
- 副委員長 石吾 厚(速星中)
- 副委員長 原 章洋(西部中)
- 副会長 林 洋一(芝園中)
- 松原 悟(山室小)
- 平野 孝一(水橋中部小)
- 角間 光伸(大久保小)
- 矢合 悟(熊野小)
- 西島 諭(音川小)
- 杉林 朋聰(保内小)
- 柳瀬 文(呉羽中)
- 西川はるみ(寒江小)
- 田中比呂陸(鶴坂小)
- 橋本 麻衣(岩瀬小)
- 越場 史恭(月岡小)
- 中村 恵(月岡中)
- 熊野智由紀(和合中)
- 園田登起子(大広田小)
- 田中 大輔(蟻川小)
- 岩城 一浩(新庄小)

